会員さんからの寄付・寄贈

藤山恵様より電気ポットの寄贈をいただききました。厚く御礼申し上げます。

研修会・講演会のご案内

◆ 静岡県主催 合同相談会 不登校・ひきこもり等を対象 12:30～15:30　相談無料　事前申込み不要
　① 三島市民生涯学習センター9 月 3 日（土）　② 富士市教育プラザ 9 月 10 日（土）
◆ 伊東市主催　ゲートキーパー研修会　9 月 13 日（火）・27 日（火）一般市民対象
◆ 静岡県自閉症協会主催 理解のための研修会「発達障害をもつ子どもの理解と対応～思春期について～」 11 月 5 日（土）
　サンウェルぬまづ大会議室　自閉症協会会員以外の方は参加費 500 円
　お申込みは静岡県自閉症協会沼津支部までお問い合わせください。
◆ 熱海市主催　ゲートキーパー スキルアップ研修会　3 月 7 日（火）一般市民対象
◆ 発達障害支援事業 第 5 回講演会 秋～冬頃を予定
◆ 定期研修会　　参加費：Be サポ会員無料、非会員 1,000 円
　参加資格：守秘義務を課せられた専門職の方が参加できます。初めて参加される方は Be サポートまでご連絡ください。
　①「子どものそだち研修会」10 月 12 日／12 月 7 日（水）18:30　偶数月開催　場所：プラサヴェルデ
　　子どものこころの健やかな成長を支援するスクールカウンセラー、児童支援員等のための研修会です。事例検討、講義等を通して学び、子どもの支援者ネットワークとしても生かされます。
　②「東部アセスメント研究会」9 月 14 日／11 月 9 日（水）18:30　奇数月開催　場所：プラサヴェルデ
　　事例検討を中心とした心理アセスメントの研究会です。参加者同士で意見交換をしあい、学びを深めます。

Be サポート業務一覧

相談・カウンセリング事業
カウンセリング、プレイセラピー、心理検査

医療・保健・福祉・教育等 地域機関への協力
精神保健福祉センター（ひきこもり相談）
市民メンタルヘルス相談
母子保健事業（乳幼児健診・発達相談・療育教室）
教育委員会（就学指導・特別支援教育・巡回相談・講師）
県立高等学校（スクールカウンセラー）
NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター
社会的養護関係施設第三者評価事業
静岡県自殺対策緊急強化事業ゲートキーパー研修

被災者支援事業
東日本大震災被災者支援活動「OHANA」

企業・事業所への支援事業
メンタルヘルスカウンセリング
自死後のメンタルヘルス緊急支援
企業研修会への講師派遣

研修・啓発事業
専門職対象の定期研修会開催
一般市民対象の講演会開催

児童発達支援事業
障害児・者総合サポートセンター　みつばち
（児童発達支援「あんず」・放課後等デイサービス「かりん」
保育所等訪問支援・指定計画相談支援・指定障害児相談支援）

平成 28 年度 5 月～8 月期　　依頼協力事業
5 月 28 日　社会福祉法人あしたか太陽の丘　職員研修「メンタルヘルス対策」　講師
6 月 21 日　伊東市　ゲートキーパー研修　ケアマネージャー対象　講師

Be サポート　会員募集

NPO 法人とは利益を目的とせず、社会や地域のニーズを追求し応える活動を行う団体です。臨床心理士を中心とした有志で Be サポートを設立しました。専門的な視点から地域のさまざまなこころの問題に取り組んでいます。現在、正会員 55 名、賛助会員 9 名、学生会員 1 名（2016.8 時点）で活動しております。私たちの活動を応援してくださる会員の方を募集しております。会員の方へは会報誌の送付、研修会や講演会の参加費用割引が適用されます。また地域で働く援助職の方には、ネットワークづくりとしても活用していただいております。会員登録を希望される方は Be サポート事務所までご連絡ください。

特定非営利活動法人　臨床心理オフィス　Be サポート

クローバー通信

2016 年 9 月 1 日発行　Vol.12

NPO 法人 臨床心理オフィス
Beサポート
〒4100056 沼津市高島町 29-11 盟萌ビル 201
Tel/Fax　055-925-1701
Mail　be-sapo@mail.wbs.ne.jp
HP　http://be2011.jimdo.com/
発行責任者　皆川行寛

Be サポート　不登校ひきこもり支援事業　居場所開設を迎えて

理事長 皆川行寛

法人事業の 3 本柱（カウンセリング・心理検査：発達支援事業：不登校・ひきこもり支援事業）のひとつであるひきこもり支援事業が、平成 28 年 9 月 1 日より開設の運びになりました。これから少しずつ地域社会に貢献できる居場所に成長していきたいと考えています。

ふり返ってみれば、現在法人の監査役を引き受けて下さっている方がいなければこの事業は立ち上がらなかったと思います。監査役が県職員だった頃に、病院職員であった私を県のひきこもり個別相談の仕事に誘ってくれたことが始まりでした。改めて感謝を申し上げます。

私はそれから意識して病院の外来やデイケアで不登校・ひきこもりの人たちと関わったり、県東部保健所でひきこもりの個別相談や家族相談を継続したり、また教育委員会や学校現場の仕事を幅広く行うことで経験値を高めてきました。また、法人スタッフ全員が何らかの形でひきこもりにかかわっており、法人の総力をあげて、この事業を成功させたいと思っています。

今回の事業は、静岡県ひきこもり支援センターの機能の一部として委託された「居場所」機能で、東部健康福祉センター（東部総合庁舎内）と連携し行う形になります。グループサポート対応の経験が豊富な臨床心理士と看護師等をスタッフとして、Be サポート事務所のあるビルの 3 階の一室で行います。社会になかなか出ることができず家にひきこもり気味の方が気兼ねなく来ていただけるような和める場所、気軽でアットホームな「おへや」のようなしつらい、内容を用意しています。ご関心のある方は、ぜひ遠慮なくお問い合わせください。

静岡県委託事業 ひきこもり居場所事業**「なごみ」**

開設日 毎月第 1～4 金曜日　１０：３０～１５：００

時間内のお好きな時間でご利用ください。

利用料無料

お問合せ先　**０５５－９２５－１７０１**（Be サポート事務所）

Be サポ会員掲示板

日頃より Be サポートの活動にご理解ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。Be サポートでは、ひきこもり支援として居場所「なごみ」を 9 月に開設する運びとなりました。

つきましては、活動にご協力いただける方を探しております。ご関心のある方はご連絡ください。

また、事業開始にあたっては様々な物品が必要となりますが、活動資金が十分ではありません。ご家庭で不要になったものなどで寄付していただけるようなものなどありましたら、ご連絡いただければ幸いです。こちらから受け取りに伺います（例えば、書棚、電子レンジ、冷蔵庫、パソコン、壁掛け時計、ボードゲームなど）。今後とも、ご支援いただけますよう何卒よろしくお願いいたします。

活 動 報 告

東日本大震災被災者支援事業 OHANA　「夏休み子ども預かり時事業 OHANA 学校」「福島視察ツアー」

『 夏休み子ども預かり事業 OHANA 学校 』

夏祭りで表彰されました～！！

夏休みの OHANA 学校が、今年も猛暑の中スタートしました。OHANA 学校を始めた当初、小学３年生と最年少だった子供たちが、今年は最上級生です。

今回、特に強く感じたことは、子供たちの学力の差です。OHANA 学校では、子供たちが学習の積み残しがないよう丁寧に支援を行ってきました。信頼関係ができてくると、時には厳しく勉強の大切さを話すこともありました。その成果が、少しずつ表れてきているように感じています。子供たちも手ごたえを感じているようで、学習に取り組む姿勢がよくなっています。一方で、復習や苦手の克服に力を入れているとき、取り組もうとしなかった子供たちは、基礎ができていないため、学習が積み重なっていないという現状があります。その結果として、学力の差が目立つようになってきていました。単に学力の問題だけでなく、「地道に努力すること」「自分で考えること」「困難な問題でも容易にあきらめないこと」など、生活態度・ものごとへの取り組み方にも差が生じてきているように感じました。

生活態度やものごとへの取り組み方は、今後、高校進学やその先の進路・就職にも影響を及ぼします。子供たちが、将来自立していくことを考えると、学習支援だけでなく、生活面の指導や、素直さを損なわない支援が大切だと実感しました。

『 OHANA 福島視察ツアー 』

８月 27 日～28 日に１泊旅行を実施しました。１日目は、まず車窓から福島県立ふたば未来学園高等学校を見ました。原子力災害からの復興を果たす人材育成を目的として設立され、静岡県立三島長陵高等学校内にも校舎があるそうです。次に、震災時の津波にも鳥居が残ったことで多くの方が勇気をもらったという波立海岸弁天島を見ました。その後、「チャイルドハウスふくまる」へ行きました。こちらの施設は、布袋寅泰氏と吉川晃司氏が再結成ライブを行った収益金の一部を、「福島の震災孤児・遺児のために」といわき市へ寄付された基金をもとに、震災による津波被害や原発事故により子ども達が受けた心の傷のケア施設として、また、原発事故により外で思い切り遊べなくなった子ども達の屋内遊び場として設立されたとのことでした。お話しを伺った NPO 法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会の森田副理事長は、被災して避難している人達が安心して自分の故郷に帰れる体制になることを願い、最も大事なこととして「心の復興」を挙げられました。参加された方々は、熱心に説明へ聞き入り積極的に質問をされていました。また、隣接する道の駅よつくら港に寄り、地元の海産物や農産物を見たり食したりしました。参加された方より、うにの貝焼きは生うにが苦手な人でも美味しく食べられること、福島の桃はとても甘いとのお国自慢を教えていただきました。

２日目は、スパリゾート・ハワイアンズと、福島県復興公営住宅モデルルーム、いわき市観光物産センター「いわき・ら・ら・ミュウ」、国宝「白水阿弥陀堂」、複合型農業テーマパーク「ワンダーファーム」へ分かれて行きました。福島県復興公営住宅は、原子力災害により避難指示を受けている方を入居対象とされた住宅です。こちらでは福島県避難者支援課の方に案内を受けました。参加された方の中には、他県の現状を知りたい想いで参加されたと話してくださった方もいらっしゃいました。また、海岸沿いには津波を防ぐ高い壁が造成されている景色が見られました。長時間の旅でしたが、幸い、暑さに悩まされることなく終えることができました。

活 動 報 告

障害児･者総合サポートセンター　みつばち

障害児・者総合サポートセンターみつばち『あんず』は未就学児の発達支援・療育支援施設です。開所して２年が経ちました。開所当時、スタッフはたくさんの話し合いを重ね、スケジュールを作り、準備をしていきました。初めてお子さんを受け入れた日のことは今でもはっきりと覚えています。

そのお子さんが今年の４月にあんずを卒業し、就学児の児童デイサービス『かりん』へ移行入所しました。先日、小学校の授業参観へ行くと、しっかり机に向かい授業を受けていました。その姿に感動！本当に嬉しかったです。その日の放課後、かりんに来た彼が、あんずの部屋のある２階へかけ上がって「今日来たでしょ？」と笑顔で言いに来てくれて、これまた嬉しく笑顔満開♪でした。

また、施設見学に来た時には不安そうな表情をしていた親御さんが、お子さんが笑顔であんずを利用していくうちに次第に笑顔が見られるようになっていく姿にもたくさんの幸せを感じさせてもらっています。

これからも、保護者の方・幼稚園等の施設と連携を取りながら、スタッフ一丸となって、【この子】の為に何が出来るかを考え、そして楽しみながら、精一杯伝えて行きたいと思います。まだまだ未熟なスタッフですが今後ともどうぞよろしくお願い致します。　　（執筆：あんずスタッフＩさん）

ゲートキーパー研修会「老人のうつ病と介護者のストレス 」

６月 21 日、伊東市で介護の現場で働く方々を対象としたゲートキーパー研修会を行いました。認知症の高齢者は年々増加し、平成 26 年度調査では 65 歳以上の認知症の患者数は約 340 万人と言われていますが、一人住まいなど孤立しがちな高齢者のうつ病も年々増加しているようです。高齢者のうつ病は認知症の初期症状との判別が難しく、出来るだけ早い医療受診が望まれます。しかし、受診に抵抗を示す高齢者が多く、早期受診に繋げるためには介護者や地域住民との信頼関係が大切になってくると思われます。

今回の研修会では、高齢者のうつ病を引き起こしやすい状況、うつ病に気付くポイント、お話の聴き方などをお話しさせていただきました。参加者からは「なかなか人と話したがらない男性の高齢者の方と、どのように関係を作ったらいいか」など、切実な質問が寄せられました。悩みを聞くという構えた姿勢よりは、お年寄りの子どもの頃の思い出話に耳を傾けるというような寄り添った姿勢が大切かもしれません。また、介護する側のストレスについても話題となりました。ぜひ介護者相互のコミュニケーションを大切にしていただきたいと思っています。

助 成 ・ 寄 付 寄 贈 報 告

「マックスバリュ東海（株）
幸せの黄色いレシートキャンペーン」

お客様がレジ精算時に受け取った黄色いレシートを地域のボランティア団体名が書かれた店内備え付けの BOX に投函していただくことで、レシート合計の 1%分の品物を各団体に寄贈するといった取り組みです。Be サポートは昨年にも寄贈をいただいています。今年は 51,600 円分の商品寄贈をいただき、子どもを預かる上で必要な衛生管理品や日用品として受納致しました。イオン様、地域の皆様に Be サポートの活動を支持していただき、感謝申し上げます。

みなさんのお仕事　教えてください！第５回「 大人の方の心理検査 」についてうかがいました

Be サポートでは心理検査を行っています。心理検査には、主に知能／発達検査と性格検査といった分類があり、それぞれにたくさんの検査があります。その中からいくつかの検査を組み合わせて、来談された方の能力特性や性格特徴などを客観的に評価していきます。

心理検査を希望される方の経緯には、「自分の性格傾向を知りたい」と希望される方、通院先の医師から勧められて来られる方がいらっしゃいます。また、最近の傾向では、「自分は発達障害ではないか」と感じて心理検査を受けられる方も増えています。年齢層としては、20 代～中高年の方まで幅広くニーズがあります。

心理検査の結果は「所見」という形でまとめ、ご本人へ報告します。所見は、検査で得られた結果をもとに、現在の状態やこれまでの経緯、ご本人の困っている部分とも照らし合わせ、複合的な視点から作成します。ご本人へ役立つように、わかりやすい言葉で、特性や今後の留意点、実際の生活に生かせる具体的な情報を提供していきます。必要に応じて、ご家族の同席をいただいて説明する機会を持ったり、周りの方にも理解していただけるよう内容を工夫した所見をお持ち帰りいただくこともあります。